

## 木喰仏

2012.10.16・17.

中山靖男

信濃では千曲川、越後では信濃川。会津では阿賀川、越後では阿賀野川。武蔵では大山街道、相模では青山往還。瀬田川、宇治川、淀川と変わる。一本の同じ川や道の呼び名が変



須坂、千曲川に架かる橋

えることは間々あることだ。

また、多摩川のように川を挟んで同じ地名があることがある。これはどういう因縁だろうか。東京側には下丸子（大田区）、沼部（大田区、現在は東急多摩川線に駅名として残っている）、等々力（世田谷区）、上野毛（世田谷区）、野毛（世田谷区）、瀬田（世田谷区）、宇奈根（世田谷区）、布田（調布市）、川崎側には中丸子・上丸子（中原区）、沼部（現在は中原区に下沼

部小学校がある）、等々力（中原区）、下野毛（高津区）、瀬田（中原区）、宇奈根（高津区）、布田（川崎市多摩区）。



葛飾北斎肉筆画

2012.10.16.~17. 長野~長岡、千曲川（信濃川）に沿って、ということは飯山線に沿って、長野~小布施~飯山~十日町~小千谷~長岡約140Kmの旅。十日町むかでや旅館に投宿、館名の由来は客足が沢山向いてくれるように願ってのこと。近くの小料理屋で焼いた「マコモ筍」（田んぼで栽培される）、ほの甘くて美味しかった。

主目的は木喰仏をじっくりと鑑賞すること。木喰仏は多数（1,000体以上）あるが、個人蔵や小寺院蔵が多く事前予約しないと見られないのが実情。今回訪れる小栗山観音堂の他に柏崎博物館などが数少ない常設館だ。木喰（もくじき）上人は1718（享保3）甲斐に生まれ、1810（文化7）93歳の長命だ。旅の僧で、佐渡と越後に長く留まった。関東近辺では国道300号線（本栖みち）沿いの道の駅「しもべ」（本栖湖から西へ約15km）の裏山にある「木喰の里 微笑の館」がある。木喰戒は五穀や煮炊きした物を断ち、木の実や草根だけを食す戒律。因みに円空は1632（宝永9）~1695（元禄8）、64歳迄生きた。

喘ぎあえぎ登った小栗山観音堂のそばには闘牛場がある。丁度通りかかった老婆に開けてもらって、いろんな話を聞いた。毎月17日は上人の月命日で開帳する、鍵は他の人が持っているので鉄格子越したが、電





気をつけさせてもらって拝観。開帳日は無料である。60軒あったが、現在は20軒。保存管理が大変であるという。



今回の楽しみは懐かしの須坂、桜井甘精堂を始めとする栗和菓子や晩年の葛飾北斎（83歳から88歳に掛けて4回訪れた）所縁の小布施、小京都と言われる笹すしの飯山、へぎそばの十日町、縮みの小千谷など。



この地では錦鯉が広く養殖され、早くも冬支度に大忙だ。大地震で壊れた道路の復旧工事が降雪前に終わるべく急ピッチで各地で行われている。

終わり。